

自己評価および外部評価結果(A棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬い愛する」事を理念として、日頃のケアに活かせる様に努力している。	理念である「入所者を敬い、愛すること」をスタッフから良く見える場所(入り口、詰め所、厨房)に掲示し、日頃の業務において各ユニット間での共有化を図っていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、川掃除・夏祭り等の行事を通じ地域の方々とコミュニケーションを図っている。	町内会に加入して、町内行事、お祭り、運動会等に参加し、地域の人との交流を図るよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	愛育委員の勉強会に敬愛を開放し、職員と一緒に理解や支援の方法を勉強している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を年6回開催し、敬愛での入居者の生活を見て頂いたり、勉強会に参加して頂き、意見交換を行っている。	2ヶ月に1回、地域の人やご家族参加のもと、運営推進会議が開催されており、積極的な意見交換が行われている。行政にも参加の呼びかけはしていますが、現段階では参加されていません。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	初年度に来て頂いた際、「参加できません」と言われ、連絡出来ていない。	市町村が行なう研修会への参加や、行政や警察関係者への相談は、随時行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げている。代表・各棟リーダーで話し合い、各職員に指示しているが徘徊・帰宅願望のある方が多いので、仕方なく玄関の施錠をしている。	身体拘束委員会を設置し、月に1回、各ユニットの代表者同士で意見交換が交わされ、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、徘徊される人への配慮(納得されるまで一緒に散歩する)も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は研修会が出来ませんでした。次年度からは勉強する機会を作っていく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修会が出来ませんでした。次年度からは勉強する機会を作っていく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約する際に代表と管理者が立ち会い説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月「敬愛だより」にて入居者の様子を報告している。行事の後に家族会を開き、素直な意見を聞いている。	玄関口に「意見箱」の設置を行なうと共に、来訪されたご家族からの意見や電話連絡など、随時、要望を伺う機会を積極的に取るように努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟カンファレンスで意見を出し合っている。	定期的な会議には必ず、代表者や管理者も参加し、運営についての話し合いをスタッフと一緒に膝を交えて行っている。また、出来るだけ問題を解決するために、スタッフ個々の意見を聞きいれながら代表者や管理者は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各棟管理者が代表に、その都度相談して助言をもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は色々勧め下さるが、中々参加できない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は工事中の為、共同作業が出来なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対して相手の立場を理解しながら説明や不安に対してその都度、家族連絡ノートに記入し、早急に答える等、信頼関係を作れるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めと支援については検討中。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に人生の先輩として敬い接している。掃除や洗濯たたみ等、職員と一緒にし、互いに協力して生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会を通じ、お互い安心感を持って生活できるような関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	里心がつくと言う家族が大半を締め納得されず。正月には岡南神社に行くが、馴染みの場・人というものは無い。	近所の人達が気軽に来訪できるように配慮しながら、個々の希望に応じて外出支援が行なわれている。また、昔からの馴染み関係が途切れないように、散髪やお墓参り等に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士でユニットを越えて行き来がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、家族より再入居の希望があり受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より本人、又は、家族より希望を聞く機会があり(面会時等)、出来る限り努力している。	出来るだけ本人・家族の意向に添えるよう、日々のサービスの中から汲み取っている。また、ご家族来訪時には、個々の意向を直接伺いながら、介護計画を作成し、反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴等聞き取り、記録し、職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・申し送り帳・ケアノート・日々の申し送りで把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、カンファレンスを開いている。ケアについてその都度、職員同士それぞれの意見や思いを話し合い、又、家族の要望等踏まえて介護計画を作成している。	スタッフ全員が参加して、定期的カンファレンスを行い、課題とケアの在り方について話し合っている。また、日々のケアサービスにおいて、随時、意見やアイデアを出し合い、サービス向上を図るべく、介護計画の作成が行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り帳・ケアノート・家族連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況において、受診・送迎等、必要な支援に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族の希望を受け入れ、現時点では、あけぼのクリニック・ながい内科・光生病院の3ヶ所。救急搬送先の病院も職員が把握している。	本人、家族の希望を伺いながら、受診体制を整えており、かかりつけ医の往診も定期的に行なわれている。また、看護師とかかりつけ医の医療連携も随時行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化も看護師に報告し、指示を仰いでいる。あけぼのクリニック・ながい内科・光生病院と連携し、24時間対応にて支援している。月2回の往診も受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	あけぼのクリニック・ながい内科より紹介状を頂き、早期の入院・レベル低下になる前の退院を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	代表・管理者・看護師・家族と常に連絡し合い、早めに話し合いを行い、各職員に指示している。変化があれば、直ちに話し合いを行うようにしている。	主治医との連携において、医療依存度の高い方への受け入れ体制も整えられている。また、ご家族の希望により、看取りの体制も整えられており、終末期ケアの在り方について話し合いが行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	容態が急変した時の救急搬送先は家族から聞いている。緊急時の連絡網とマニュアルは作っている。応急手当や初期対応は看護師より支持されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消防訓練は年1回、消防署立ち会いで、実施している。	年3回、避難訓練を実施している。消防訓練は年1回実施し、全てのスタッフが速やかに非難できる方法を身につけている。また、階段口には、スロープが設置され、安全に非難できるような体制が整えられている。	地域協力は充分得有られています。が、地域を巻き込んだ避難訓練を実施することで、緊急時の避難もさらに速やかに行なわれるのではないかと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は認知症である前に一人の人間であるという気持ちを忘れない様に心掛けている。	プライバシーを損なわないよう、個々の気持ちに充分配慮しながら、ドアの開閉や言葉遣いなどに気をつけて対応している。また、排泄時には他者への配慮も行いながら、羞恥心を大切にされたケアが行なわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室で過ごす人、リビングで過ごす人等、その人のペースで生活できるよう配慮している。希望や気持ちを引き出せる様、顔を見ながらスキンシップをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの訴えを聞き、その時の状況に応じて散歩に行ったり、他棟へ遊びに行ったり。入居者の思いを聞き、安心してもらえる様な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室に自宅で使用していた鏡台を置くなどし、日頃から目に留まるようにしている。又、月1回のボランティアにより散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者・職員と一緒にリビングで摂り、家庭的な雰囲気を出し、おしゃべりしながら楽しんでいる。	スタッフや利用者さんの元気の良い声で食欲が増進し、食事が楽しいものになるよう、食事前に体操を行っている。また、食事の準備、後片付けも、個々の能力に応じて無理強いないことなく、楽しく自然に行なわれるように配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で決まり、個人に合わせた量や食事形態に配慮・工夫し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを実施している。自立の方は声かけにて誘導している。また、義歯は1回/W、ポリデントを使用している。(1名↓火・木・土ポリデント使用)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、その人に合わせたトイレ誘導、オシメ交換を行っている。「オシッコが出た」と教えて下さる入居者もあり、その都度交換している。	排泄の自立に向けて、入所当時から布パンツに向けてのケアが行なわれている。また、個々の排泄パターンを知ること、失禁を防ぐ支援が行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、個々に合わせた緩下剤の内服・浣腸を行っている。廊下を歩いたり、散歩等し、排便を促している。不消化便が続く時は、食事形態の見直しをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3回/Wの入浴を実施している。拒否する時は時間を空け、再度声掛けしたり、職員を変えたり工夫している。	一人一人の希望の時間や温度を大切に、入浴が楽しめるように支援している。また、入浴を拒否する利用者さんにも、気分を損なわないような言葉かけにより、入浴が定期的に行なわれ、清潔が保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤を医師の処方内服し、入眠を促している入居者がかなりいる。医師と相談しながら中止の方向で考えて行く。静かな時間を過ごし、眠りに導いていく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は詰所で預かり、入居者の目の届かない場所に保管している。薬の調剤表はカルテにて共有しており、変更があった場合には申し送り帳・ケアノートで職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦歴を活かしたモップ拭き・洗濯干し・洗濯たたみ、時にはお盆を拭いてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩の希望にはその都度、職員が対応している。	散歩や天気の良い日は、テラスで談話をしながら、湯茶を飲んだりするなど、できるだけ戸外に出るような支援が行なわれている。また、外食やドライブなど、希望を伺いながら、ご家族の協力において出かけるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く事がない。病院受診時、希望により売店で飲食物を購入、喫食している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持ち、常に家族と話が出来る様に対応している入居者もいる。敬愛にかかって来た時には電話口にて話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面には入居者と相談しながら一緒に作っている。出来あがった時、皆で眺め、満足されている様子。	室内の温度や照明、換気等に気をつけながら、居心地良く過ごせるように支援している。また、窓から見える風景や室内の装飾や生け花などで、視覚から季節感が取り入れるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろぐ人、広告・新聞を広げる人、歌を歌っている人、TVを観ている人、話をしている人、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台、タンス、椅子等、使い慣れた家具を置いている。	昔使っていた家具や鏡台などを持ち込んでもらい、それらを通じて、スタッフが本人の人生観や生活歴を知り、安心して自宅のように穏やかに過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を貼り、目印になるようにしている。自分の居室の区別が出来ない人や歩行できない人は誘導している。		